

5 広報相談に関する取組

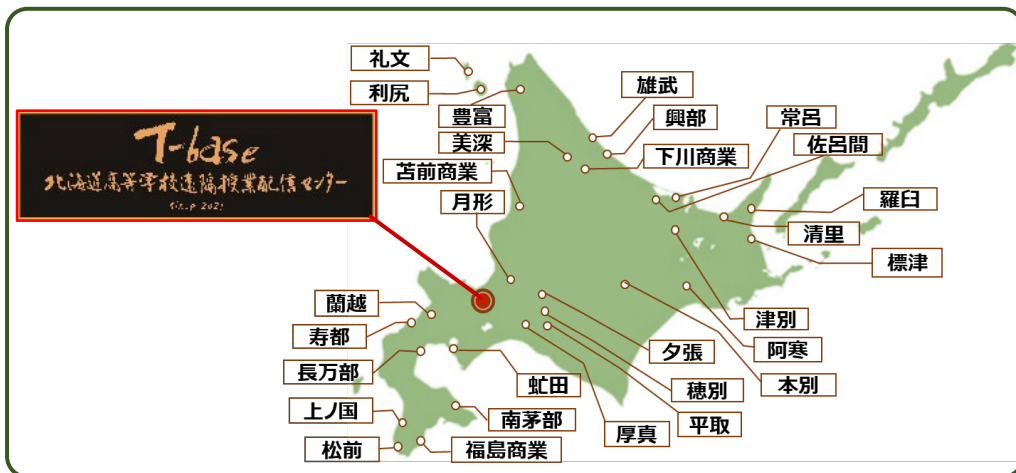
若年層や子育て世代を対象に、財務省や金融庁の施策を、予算編成シミュレーションのグループワークや生活に役立つマネー講座など、分かりやすい形で情報発信しています。

過疎地の小規模高校での財政教育プログラムの実施

北海道高等学校遠隔授業配信センターと連携し、これまで提供機会のなかった過疎地の小規模高校において、日本の財政に興味を持ってもらうこと等を目的に、アクティブラーニングを取り入れた出前授業である、財政教育プログラムを実施。当該連携を契機に提供機会拡大を目指す。

概要

- 北海道では、過疎地の高校を中心に、進路希望に対応した教科・科目の開設が困難な小規模高校が増加しているが、これらを一元的に支援し、オンラインで授業を行うこと等を目的とした**北海道高等学校遠隔授業配信センター（T-base）**が開設された。
- 同センターの公民科担当教諭等と連携し、これまで財政教育プログラムの提供機会がなかった**過疎地の小規模高校**において、**財政教育プログラム**を実施した。



取組の成果

- 北海道は広域で、かつ、過疎化した地域が多く存在するという特徴のある中で、**都市部の高校と同様の教育環境を得たいという地域のニーズ**に応えながら、日本の財政に興味を持ってもらう機会の拡大が図られた。
- 今後、遠隔授業が導入される学校の増加が見込まれており、同センターと引き続き連携しネットワークを活用しながら、**過疎地の小規模高校での財政教育プログラムの提供機会を拡大**したい。



豊富高校でのグループワークの様相
旭川財務事務所職員が訪問
(令和4年11月9日)



〔参考〕 T-baseでの配信の様子
(画像は英語の授業)

フューチャーデザインを活用した財政教育プログラムの展開

盛岡財務事務所では、連携先である岩手県矢巾町がまちづくりに活用している「フューチャーデザイン」の考え方を財政教育プログラムに取り入れ、県内の中学・高校・大学等で展開。若年層が将来世代の視点に立って日本の財政を考え、活発に議論する機会を創出。

概要



○財政教育プログラムとは

若年層に日本の財政に興味を持ってもらい、社会問題を自分事として捉え、自分たちの国の将来について考え、判断できる知識を育むことを目的に実施している出前授業。

●フューチャーデザイン(FD)とは

「数十年先の未来からタイムマシンで飛来した未来人」という仮想のもと、「将来世代がよりよく生きるため」という観点から思考・検討・議論する手法。

もしも未来人が目の前に現れたら…

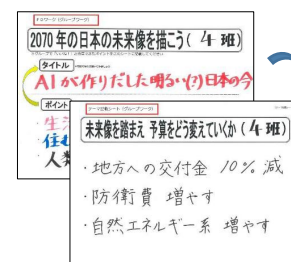


○実施に至った経緯

矢巾町と盛岡財務事務所は同町の財政状況に関する住民説明会を共同で開催するなど、以前から連携関係にあった。他方、同町では従来よりまちづくりにFDの考え方を活用してきたところ、これを財政教育プログラムにも活用できるのでは？との発想から実施に至ったもの。

取組の成果

○令和3年10月の大学生向けを皮切りに、令和4年度以降は中学生、高校生にも順次展開。新聞記事などの各種メディアにも取り上げられる。



●参加者の声

- ・未来人になりきり、現世代へのアドバイスを考えるという手法が新鮮だった。
- ・FDは政策や予算を組んでいくために必要な考え方であると感じた。

○今後の展開

矢巾町のノウハウを学び、盛岡財務事務所単独で開催していくことにより実施先の拡大にも繋げていく。

【読売新聞2023年2月21日付】

財務省三官署の連携による若年層向け広報活動の展開

東海財務局静岡財務事務所は、関係官署とのネットワークを活用し、県内の税関、税務署と連携して若年層向けの金融経済等教育を実施。卒業前の高校3年生が社会に出るうえで有用な知識をワンストップで提供することで、効果的な広報活動を展開した。

概要

- 静岡財務事務所は、県立相良高校と金融経済教育の講座内容について調整をする中で、受講生が卒業間近の3年生(新成人)であり、金融経済の分野に限らず、様々な教育のニーズがあることを把握。
- 名古屋税関清水税関支署、静岡税務署と連携し、**薬物乱用防止教室、租税教育、金融経済教育及び財政教育(主権者教育)のコラボ講座**を実施。
- 就職・進学を控えた高校3年生に対して、ワンストップで講義を行うことで、受講生の理解促進を図った。



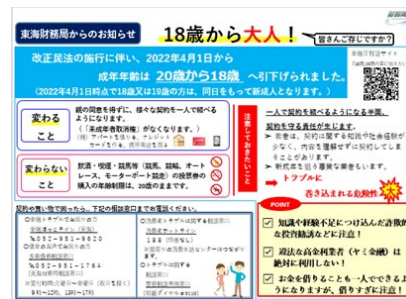
講義テーマ	
第1回	金融と経済を学ぶ
第2回	ライフプランを描く
第3回	トラブルを避ける
第4回	財政の役割と機能

取組の成果

- 卒業前の高校3年生に集中的な講座を行うことで、社会に出るうえで有用な様々な分野の知識について理解を深め、関心をもってもらう契機となった。
- 今後も、地域のニーズに合わせて、当所が持つネットワークを大いに活用し、効果的な広報活動を展開していく。

【参加者の声】

- ・自分にはあまり関係のない、難しい話だと思っていたが、聞いてみるとすべて自分の将来に関わる話だった。
- ・4月から就職するので、いいタイミングで話を聞くことができた。トラブルに巻き込まれないように気を付けたい。



成年年齢引下げに伴う注意事項を周知



スマホを使った借金シミュレーション体験

三者協働による財政教育プログラム

福岡財務支局では、福岡国税局、福岡県選挙管理委員会との三者協働による高校生を対象とした財政教育プログラム(全国初)を実施。

概要

- 財務局では、若年層に日本の財政に関心を持ってもらうため、小中学校・高校の生徒を対象として、国の予算編成を疑似体験する授業「財政教育プログラム」を実施している。
- 財政教育、租税教育、主権者教育について、各専門分野の職員による講義及びグループワークを行い、より深い学びを提供するため、令和5年1月、福岡県立光陵高等学校3年生(約140名)を対象に三者協働による財政教育プログラム(全国初)を実施した。

プログラムの構成

講義

日本の財政とその課題

福岡財務支局・福岡国税局

グループワーク

予算ボードを使って国の予算編成を疑似体験

講義

選挙の仕組みや意義

福岡県選挙管理委員会

取組の成果

- 生徒からは「授業とは違う学び方で、財政、租税及び選挙についての理解が深まり、自分事として捉えることができるようになった」と好評であった。
- 今回の協働により、三者それぞれの取組についても理解が深まり、例えば、模擬投票を取り入れるなどの発展的な取組につながる可能性も出てきた。



- 今後も三者による連携を継続のうえ、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現のため、より効果的な財政教育プログラムの展開に努めていく。